

県民の誇りと尊厳かけた闘い

沖縄県知事選

沖縄と日本の未来を大きく左右する沖縄県知事選が27日、告示された。9月13日投票。高市政権による露骨な選挙介入に対する怒りの声が広がっている。米軍による占領支配から本土復帰して54年、県民の誇りと尊厳を取り戻すための苦闘が続く沖縄。玉城デニー知事3選に向かう県知事選の歴史的意義を考えます。(竹下 岳)

デニー知事3選へ歴史的選挙

分断を団結の力で克服 苦闘の歴史デニー県政

「基地のない平和で豊かな沖縄」。この悲願を実現するため、県民は幾度となく団結し、1972年、本土復帰を勝ち取りました。

しかし、日米両政府は分断の常套手段である「アメとムチ」で基地と引き換えの利益誘導で団結を破壊し、復帰後も基地を維持してきました。米軍による犯罪・事故・環境汚染は野放しにされ、街づくりが阻害されてきました。

95年9月、沖縄本島中部で、米兵3人が女子小学生を集団暴行する事件が起きました。翌月に開かれた県民大会には、党派を超えた8万5000人が結集。県民は再び団結します。

沖縄の基地を失うことを恐れた日米両政府は96年、住宅地と真ん中にある米軍普天間基地(同県豊後町市)の「県内移設案件付き」返還を打ち出します。今回の県知事選最大の争点である普天間基地問題の出発点



自身の母の墓を伊江島を背にして第一声を上げる玉城デニー知事。27日、沖縄県本部町

「辺野古の陸にも海にも新基地を造らせない」と公約した稲嶺進氏が名護市長選で勝利しました。

13年1月、県内全41市町村長、議長議長らが署名した「建白書」が政府に提出され、「普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設の断念」が県民総意となります。14年11月、「建白書」実現の先頭に立った稲嶺進氏が県知事選に圧勝。保守・革新を超えた「オール沖縄」県政が誕生し、歴史的な転換点を迎えました。

翁長県政は誕生直後から日米両政府の激しい攻撃にさらされますが、一歩も引きませんでした。そこにあるのは、基地をはさんで県民同士が争つてきた歴史を終わらせ、「誇りある豊かさを実現したい」という、確固たる信念でした。

18年8月、志半ばで亡くなった翁長氏。その遺志を継いだのが玉城デニー現知事です。同年9月、22年9月の知事選はいずれも圧勝。コロナ禍という未曾有の危機を乗り越え、「誰ひとり取り残さない」政策は着実に前進していきま

した。デニー県政はあらゆる権限を使って辺野古新基地阻止に取り組みました。司法まで動員した権力総かりの攻撃で権限を奪われましたが、デニー知事は27日、「辺野古は絶対反対だ」と

力強く訴えました。強制される分断と、これを乗り越えようとする団結。に立っているのが、デニーの力。その苦闘の歴史の上、県政なのです。

「辺野古が唯一」は破綻。普天間解決の重大転機。返還、合意から30年の今年、知事選の最大争点である普天間基地問題は重大な転機を迎えました。日本政府は、辺野古が普天間基地問題の「唯一の解決策」だと繰り返し工事を強行してきました。

ところが、米国防総省は今年4月、辺野古新基地が完成しても、別の「長い滑走路」を用意しなければ普天間は「返還されない」との見解を公表。その「長い滑走路」は、県想定されているのは、県の大動脈である那覇空港です。

そもそも、辺野古新基地は軟弱地盤の工事が難航して完成のめどが立っておらず、「完成」しても沈下が続くため、延々と改修工事が必要となります。このままでは、米軍が辺野古を使い物にならない基地とみな

す。加えて、自民党県連と長年の敵対関係にあった下地幹郎元衆議院議員を東京に呼びつけ、県知事選の立候補をとりやめさせ、自民党が推す古謝玄太候補の支持まで約束させました。すでに

高市政権は権力を総動員して県民に襲いかかっています。政権と党の維新に加え、公明党県連、国民民主、さらには沖縄戦の歴史を公然と否定する参政党、日本保守党といった反動勢力を結集。かつてない規模の企業陣営も組織力で行われ、デニー陣営を組織力で圧倒する狙いがあります。

加えて、内閣支持率の低下や首長選での敗北が続くなか、沖縄県知事選での敗北は政権基盤を揺るがす事となりかねない。なりた闘い」を呼びかけまし

は、破綻的な辺野古の工事継続、普天間基地の「永久化」と那覇空港の「米軍基地化」という最悪の道が待っています。

30年間にわたって用いられてきた、辺野古が「唯一の選択肢」という口実が大ウソだったことが明らかになった。心ならずも辺野古容認の選択をした人を含めてデニー知事の下に団結し、普天間基地問題の解決策を根本から問い直す局面にきていま

「新基地反対」デニー氏に各界の応援

高市支持低下に自民元閣僚「流れ変わった」

▽沖縄県知事選告示 「オール沖縄」の玉城デニー知事と、辺野古新基地容認の自民系候補の事実上の一騎打ちです。デニー知事は赤旗インタビューで米軍普天間基地の即時閉鎖・撤去、新基地建設反対を訴えます。各界の応援の声、選挙の争点の特集します。

▽高市政権の支持率下落に自民元閣僚から「流れは変わった」の声 先の国会で各党の立ち位置が鮮明になる中、日本共産党への注目が。

▽日本の避難所の「貧困」 避難所の改善が進みません。問題は防災予算も人員も少なすぎること。災害発生後48時間以内にTKB(トイレ・キッチン・ベッド)がそろったイタリアの例を紹介。何が必要か考えます。

▽ひと 俳優の上川隆也さん
▽レシビ「うれしい一品」ハワイ風ステーキプレート(森野熊八さん)



日曜版8月30日号

▽ほかにもー
・直木賞受賞作家の朝倉かすみさん、『けんぐわい』は自分にとって特別な作品。
・俳優の高嶋政伸さん、初エッセー集にこめた思い。
・トランプ米政権が国際刑事裁判所(ICC)の赤根所長を制裁の暴挙。
・30代就農夫婦「安全安心な作物届け、子どもの貧困なくしたい」。



「日曜版電子版」のトップページはこちらから
←スマートフォンで読み取るとアクセスします。読みどころ満載の日曜版の記事を知り合いに共有・拡散してください！

石川優実 著

私が私を取り戻すまで

性暴力被害のその後を生きる

性暴力から安心して回復できるのはどんな社会か、そもそもなぜ性暴力は起きるのか。紡がれた著者の言葉からなげかける。

●定価:本体 2200円+税/四六判/176頁/ISBN978-4-406-06920-5

土山 優 著

アンネは、なぜ死んだのか

十年間の旅の記録

緻密なヒトラー暗殺計画でナチスを震撼させた時計工、反ナチス活動により新首刑となった若者たち……。

●定価:本体 1800円+税/四六判/224頁/ISBN978-4-406-06975-5

仁藤夢乃 著

性売買を固持する権力

少女たちの性が「買われる」現場から

未成年に対する性売買やホストなど、女性を搾取するビジネスが後を絶たず、被害者だけが責任を問われていく。なぜ「買われ側」が罰せられないのか? ひどいひとりの無関心をなくし、社会を変えていくためにどうすればいいか? 著者の経験を元に、見えなくさせられている「搾取の構造」を可視化する一冊。

●定価:本体 1600円+税/四六判/224頁/ISBN978-4-406-06939-9

10代から考える性差別・性暴力

バカなフリして生きるのやめた

バカなフリして生きるのやめた

衣食住を満たすために、今日を生き延びるために、性売を中高生がしているJK(女子高生)などが性的に商品化されるのか。誰がその構造をつくっているのだろうか。根本にある差別と暴力を問い、自分事として考えていくための入門書。

一般社団法人Colabo代表

性売買を固持する権力

少女たちの性が「買われる」現場から

「買われる」現場から

少女たちの性が「買われる」現場から

何重にも重なる抑圧のなかで
支配と暴力の関係性
差別や暴力に気付けない社会
共にあること

仁藤夢乃 著

性売買を固持する権力

少女たちの性が「買われる」現場から

未成年に対する性売買やホストなど、女性を搾取するビジネスが後を絶たず、被害者だけが責任を問われていく。なぜ「買われ側」が罰せられないのか? ひどいひとりの無関心をなくし、社会を変えていくためにどうすればいいか? 著者の経験を元に、見えなくさせられている「搾取の構造」を可視化する一冊。

●定価:本体 1600円+税/四六判/224頁/ISBN978-4-406-06939-9